

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 3年 2月 28日

公表: 令和 3年 3月

事業所名: ジーニアスラボ平手校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		5	限られた空間の中で、その場の状況に応じて、活動スペースを分ける工夫をしている。	活動スペースを広げるため、事業所移転を検討している。
	2	職員の配置数は適切であるか	3	2		人数調整をして、安心、安全な環境で活動できるようにしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	2	必要な時はスロープを常備し対応している。それぞれ目的に合わせた空間配置を行っている。	利用者の特性に応じ、安心して過ごすことのできる環境づくりに努めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4	1		清潔を保ち環境整備を常時行っていくが、スペースの不足もある為、移転を検討する。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	3	2		ミーティングなど、情報共有する機会を増やし、業務改善に努めていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		5		評価表の結果やご意見を業務改善につなげていけるよう、努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		5		今後も継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		5		保護者アンケートを実施し、改善に取り組みたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3	2	研修の内容を議事録にまとめ、共有できるようにしている。	年間での大規模な研修制度を4月より導入。よりいっそうの資質の向上に努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		5		今後も継続していく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	1		今後も継続していく。
	12	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインに沿って、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4	1		ガイドラインについての見直し、今後更なる理解を深めて具体的な支援につなげていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	1		利用者の状況を捉えながら、必要な支援を提供していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか		5	毎月活動の見直しを全体で行っている。	常にどうすればいいか考える続けられるよう今後も務めていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		5	毎月活動の見直しを全体で行っている。	常にどうすればいいか考える続けられるよう今後も務めていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		5		今後も継続していく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	2	3		予定の都合により打合せが不足する日もある為、検討し改善に努める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	1	支援終了後に振り返りができない場合は、翌日の朝礼時に情報共有を行っている。	日報の作成や支援終了後の振り返りの徹底など、情報共有を綿密にしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		5	日々の利用者の状況や様子を記録し、情報の共有を行っている。	個々の支援内容を日々詳細に記録し、支援の充実を図っていく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4	1		今後も継続していく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5			今後も継続していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	5			今後も継続していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	25	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	5		情報交換や引継ぎを該当施設及び関係者と行っている。	得た情報を全スタッフ間で共有できるよう、報告会や記録作成を行っていく。
	26	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5		利用者の特性や性格、様子等を具体的に伝えている。	問い合わせや相談等があった場合にも対応できるよう、スタッフ間での意識の共通化を図る。
	27	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	2	連携を取りながら利用者の支援にあたっている。	今後も基幹と連携し支援に努めていく、又研修にも積極的に参加していく。
	28	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	4		コロナ禍で中々機会を設けられなかった事もあり、交流は少ない。状況を見ながら活動の場を広げていく。
	29	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	2	3	オンライン等による参加を行っている	今後も継続していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	1		今後も継続していく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	4	1	情報共有を行う際や面談時などに、保護者の相談を受けている。	保護者支援を継続しつつ、保護者支援の充実を図るためにスタッフの教育を行っていく。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			今後も継続していく。
	33	放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	5			今後も継続していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			今後も継続していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	3	現在はコロナ禍という状況下で開催を控えている。	オンライン開催などの代替手段を模索していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			今後も継続していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5			今後も継続していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	5		鍵付きの書庫にて保管している。	今後も継続していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			今後も継続していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4	コロナ禍という状況特性上、公開イベントなどが開催できていない。	地域の方向けのオンラインイベントや広報誌の配布等、代替案を模索していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	3	2	毎月防災活動を行い、常に意識を高めるよう努めている。	現在の対応を見直しつつ、新たな対策をチームで検討、準備を行っている。常により安全に対応出来るよう更新していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5			今後も継続していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	4	1		今後も継続していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5			今後も継続していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	1	事例集の作成や、些事でも記録することで危機管理意識を高めるよう意識している。	反省改善のための事例集の活用を徹底していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	3	2		虐待防止委員会を設立し、社を上げて防止に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5			今後も継続していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。